

入善町カウンセリング講座



8月7日(火)うるおい館にて、富山大学大学院 准教授 石津 憲一郎 先生を講師にお迎えし、「学校で苦戦する子どもたちへの支援ーカウンセリング心理学の視点からー」という演題でご講演いただきました。演習を交えながら、子供の自立とエネルギー循環システムや関係性を支える要因、相手を支えるということについて大変分かりやすくご指導をいただきました。特に、苦戦する子供には「徹底的に寄り添う」「聞いてもらえる、分かってもらえる感覚に基づく、心の中のプラスづくりからスタートすることが大切である」ことを教えていただき、今後の教育活動に生かしていけるご示唆を得ることができました。



参加者からは、「相手の心の中にプラス要素をいかにしてつくってあげるかが関係づくりにつながる事が分かった」「実際にワークをしてみることで、話を聞いてもらうことのよさについて気付くことができた」などの感想が多く寄せられました。

次年度も、教育現場のニーズに対応し、日々の生徒指導における悩みや問題解決につながる研修会になるよう努めていきたいと思います。

心の教育研修講座



8月9日(木)に第1回心の教育研修講座を実施しました。「不登校児童生徒の困難の理解と対応」という研修題で、県総合教育センター教育相談部 主任研究主事 本村 雅宏 先生を講師にお迎えし、不登校児童生徒へのチームによる支援の必要性や効果などについて分かりやすく話していただくとともに、「エピソードプロセス」によるケース会議の演習を取り入れながら、丁寧に指導していただきました。



参加者からは、「ケース会議で話し合う内容を絞り込んで効率的に会を進めていく手法は、時間に限りがある学校現場では、有効な手立てであると感じた」「チームとしてできることを考え、役割を分担するところが、担任だけの負担にならず、精神的にもがんばろうと思える会議だと感じた」などの感想が寄せられました。なお、当日に配布した「チームによる支援を促進させるエピソードプロセス(CD-R)」をケース会議や研修会などでご活用いただきたいと思います。

～ 内地留学報告 ～



「内地留学を終えて」



入善町立入善中学校 教諭 橋 豪俊

昨年度の10月1日から3月31日までの6か月間、富山大学人間発達科学部附属人間発達科学研究実践総合センターで研究主題「カウンセリングを生かした不登校児童生徒・保護者への支援」と題して研修させていただきました。

テーマに沿って研修を進める中で、考え続けさせられたことがあります。それは「なぜ学校へ登校しなければならないか」です。大学の講義や演習、文献研究、調査研究を通して「人は人と関わることでしか人間性が豊かにならないのではないかと考えるようになりました。限られた関係の中では豊かな人格形成はできません。だからこそ、学校で人と関わる経験を積まなければいけないのではないのでしょうか。

私が学んだのはカウンセリングの入口でしかありません。6か月で理解できるほど簡単なものではありませんでした。だからこそ自分にできることを通して、人と人が関われるように、人と関わるのが楽しいと思えるように今後の教育活動に力を注ぎたいと思います。

終わりにになりましたが、このような貴重な研修の機会を与えていただいた富山県教育委員会、入善町教育委員会、そして快く研修に送り出してくださった入善中学校の教職員の皆様に厚くお礼を申し上げます。



新任教頭として



「宝物」

飯野小学校
教頭 大森 博彰

「ねえ、この中に何が入っているの？」と、足元から聞こえる声と同時に、お腹に小さな刺激を感じました。1年生の女の子が大きく張り出した自分のお腹を触って不思議そうに見上げています。「宝物だよ。」と答えると、「へー、どんな宝物？」との問いかけに「美味しいものをいっぱい食べたから宝物が詰まっているんだよ！〇〇さんもおいしい給食いっぱい食べて宝物いれる？」と聞き返すと、「いやだ、そんな宝物ならいらな〜い。」(そりゃ、そうだ！)

素直で明るい子供たちとの一時が学校での毎日の楽しみです。毎朝7時前に登校し、玄関が開くのを一番で待っている子供がいたり、朝と帰りに毎日職員室まで挨拶しに来てくれる子供がいたり、220名の児童一人一人がそれぞれの思いをもって生活し、その姿から元気もらっています。

そんな子供たちを支えてくださっているのは、同窓会の皆さんや防犯パトロール隊の皆さん、学童保育の指導員、児童民生委員の皆さんなど、飯野地域の多くの方々です。「飯野の子は飯野で育てる。」を合言葉に、早朝から子供が家庭に帰るまで、飯野校区全域で手厚く見守ってくださっています。

このような地域や保護者の願いに学校として真摯に応えなければなりません。教職員が丸となって「宝物」である飯野っ子の「生きる力=人間力」の育成に取り組めるよう、微力ながら教頭としての役割を果たしていきたいと思えます。



「今思うこと」

ひばり野小学校
教頭 竹内 静

笑顔の子供たちのアーチに迎えられた始業式。全校児童54名のひばり野小学校に勤務して8か月が過ぎようとしています。5年ぶりの現場ということもあり、子供たちから元気パワーをもらうことを楽しみに、毎朝、玄関前で挨拶をしています。

さて、本校はこれまでの積み重ねが認められ、5月に「県民ふるさと大賞」を受賞しました。これは、七夕パレードをはじめとした様々な行事での子供たちと地域の方々との繋がり、歴史と伝統に対する表彰でした。子供たちや保護者はもちろん、地域の方々にも大変喜んでいただきました。

また、本校は今年度より2年間、富山県小学校教育研究会 県東部 理科研究推進校として研究主題の解明に向けて研究を進めています。11月7日の研究会では、3年と6年の授業を公開し、当日参加された多くの先生方と活発に協議することができました。これは、本校の研究主任や授業者をはじめ教職員の努力もありますが、魚津ブロック小教研理科部会の先生方からの大きな協力があったことでできた研究発表だと思います。もちろん、入善町教育委員会のご支援、事務官や校務助手、調理師の運営面での献身的な協力がなくてはできなかったと思います。

このように研究会を無事に終えられ、初任教頭としてひばり野小学校でなんとか勤めているのも、本校の教職員、保護者や地域の方々のご理解とご協力があったからと感じています。これからも、校長先生のリーダーシップの下、教職員の方々と協力するとともに、今置かれた立場で、自分がすべきことをしっかりと遂行していきたいと思えます。



「初任教頭として思うこと」

桃李小学校
教頭 宇田 映子

6年生が「つなごう防火の心」をテーマに、防火について全校児童に発表しました。6年生一人一人の発する言葉に耳を傾け、まっすぐ前を見て聞いている子供たち。防火の意識を高めてほしいと願う6年生の思いが十分に伝わった時間となりました。学習したことを伝え広めながら共に学び合う姿、子供同士の関わりの中でよりよく生きる力を高めている姿を目にすることができました。教職員の日々の熱くしなやかな指導が子供たちのよりよく生きる力を引き出していることを感じました。

毎朝、職員室に「おはようございます」と挨拶に来る子供がいます。挨拶の声は日に日に大きく力強い声になってきました。挨拶に応える教職員とのほんの一瞬のやりとりに、温かな繋がりを感じます。また、子供の目につく場所に季節の花を飾る教職員の細やかな心配りにも見習うことが多くあります。

初任教頭として悪戦苦闘の中、子供たちの成長に喜びを感じることができるのは、子供を真ん中にそれぞれの立場から繋がり、協働している教職員のみなさんのチーム力があってこそと感謝しています。チーム桃李の一員として、子供たちのよりよく生きる力を引き出すために私に何ができるのか考え、一日一日を大切に努めていきたいと思えます。



「鳥肌」~校内巡回の1シーンより~

入善西中学校
教頭 能登 一昌

2学期、体育大会が終わってしばらくすると、終学活の時間帯に様々な歌声が響き始めます。自分が担任していたクラスの生徒が歌っていた曲を聴くと、生徒と共に賞を目指して頑張っていたことを懐かしく思い出します。

合唱コンクールは、本校の行事の中でも特に力が入る取組の一つであり、自慢の取組でもあります。コスモホールに響く合唱は、とても素晴らしいもので、あまりの感動に鳥肌が立つほどです。と言いつつも、今年のコンクール当日は出張が入っており、コスモホールでの本番が聴けませんでした。

本番当日の朝、練習の様子だけでもと思い、朝練習の時間に全てのクラスを見て回りました。より素晴らしい合唱にするため、クラスのメンバー全員がそれぞれ必死に練習しています。パートリーダーたちの指示、生徒の歌声や表情、担任の生徒へのまなざし、クラスならではの取組すべてに感動し、胸が熱くなりました。

発表までの過程・・・音楽の授業、クラスでの話し合いなど、本番をむかえるまでにどれだけの取組をクラスでしてきたのでしょうか。私たちの仕事すべてに通じるとても大切な風景を見ながら、コスモホールでのそれとはまた違う鳥肌を立て、職員室に戻りました。